

2018年5月28日

官民データ活用シナリオ創発プラットフォーム事業 事業の結果と最新の運用状況

株式会社 リアライズ
一般社団法人 行政情報システム研究所

目次

1. 事業の概要
2. 事業の結果
3. 運用状況
4. 今後の取組

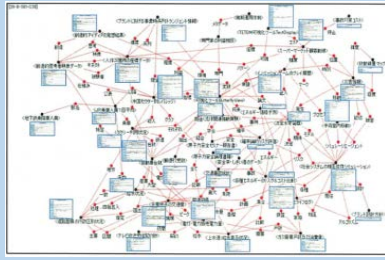
1. 事業の概要

対象地域	神奈川県横浜市
実施団体	株式会社リアライズ
事業概要	横浜市の課題解決及びスマートシティ推進に役立つデータ利活用アイデアおよび課題解決シナリオを組織的・体系的に創発するため、 (A)課題・ニーズ起点で官民データの「データジャケット（概要情報）」を登録・利活用するプラットフォームを構築 するとともに、 (B)そのデータへの可視化ツールの適用やワークショップの運営 からなる一連のプロジェクトを実施する。

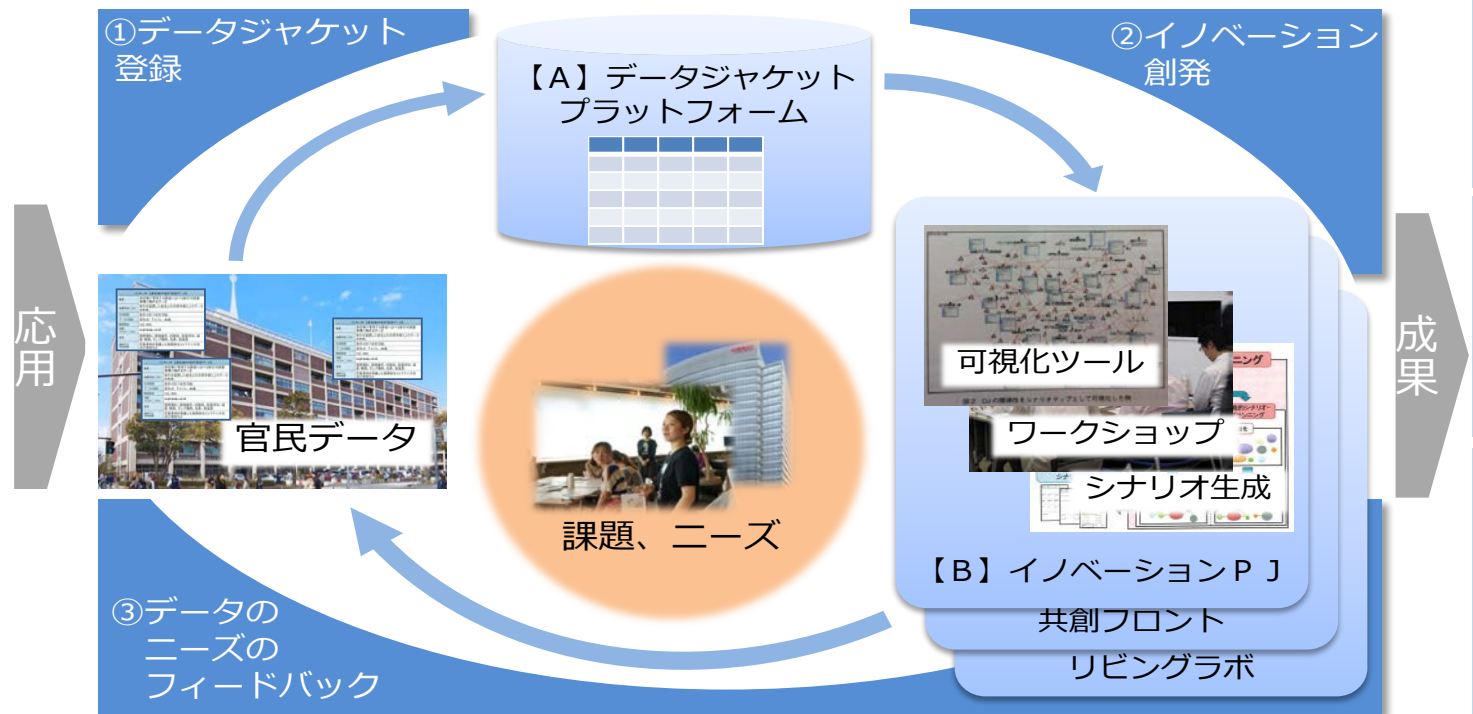
事業コンセプト

「データジャケット手法」
(東大・大澤教授)

データセット全体ではなく、データの概要情報と課題・ニーズを組合せて可視化することで、潜在ニーズや解決策を発見する



本事業のフレームワーク



事業のゴール

- 課題・ニーズ起点での官民データ活用に利用可能なデータの概要情報を把握
- 組織的・計画的に官民データ利活用シナリオを創発し、優れたシナリオは実装へとつなげる
- フレームワークの普及を図り、行政機関/自治体間での共有・API連携で、さらに大きなスケールでデータをマッシュアップ

2. 事業の結果

①横浜市における課題解決シナリオ創発

データを活用した課題解決のための公民共創の場を創出



2. 事業の結果

②官民データのデータジャケットDBの構築

- 横浜市のオープンデータカタログをデータジャケット化
- その他の官民データ（行政の非オープンデータや民間データ）も収集、将来的には課題ベースでのマッシュアップも可能に

官民データ

オープンデータ

名称	乳幼児一時預かり施設一覧
概要	用事を済ませたい、少しでもリフレッシュしたい、急に仕事が入ったなど、子育て中、一時的な保育が必要な場合に理由を問わず子供を預かってくれる施設の一覧
所有者	横浜市こども青少年局
データ項目	施設名、所在地、アクセス、実施時間、電話番号、FAX番号、料金

行政保有 非オープンデータ

名称	赤ちゃんの駅一覧
概要	授乳やオムツ替えができる施設が分かる一覧
所有者	横浜市金沢区
データ項目	施設名、所在地、電話番号

民間データ

名称	横浜市の坂一覧
概要	自転車で出かける時に坂道がどこにあるか分かる、坂道を避けられるマップ
所有者	坂学会
データ項目	区名、坂名、坂名カナ表記、別名、所在地、階段の有無

プラットフォーム

2. 事業の結果

③ 「官民データジャケットPF(仮)」を公開

- 2018年3月にβ版を公開
- 今後、順次機能を整備・拡充予定



3. 運用状況

①他自治体への展開例（川崎市）

職員向けのデータリテラシー研修としてデータジャケットを活用

- ・ワークショップのテーマ：
世代間交流のためのコミュニティ形成
- ・参加者：川崎市職員約30名
4つのテーブルに分かれて実施
- ・講師：東京大学大学院工学研究科
大澤幸生教授、早矢仕晃章助教

時刻	時間	内容
12:15	60分	集合、会場準備
13:00	15分	開場、受付開始
13:15	5分	川崎市ICT推進課より挨拶及びWS趣旨説明
13:20	40分	基調講演
14:00	80分	IMDJワークショップ (ショートレクチャー+ワークショップ)
15:20	10分	休憩
15:30	60分	アクション・プランニング (ショートレクチャー+ワークショップ)
16:30	20分	シナリオプレゼンテーション
16:50	10分	講評、アンケート、総括
17:00		閉会、片付け

3. 運用状況

②産官学との交流と普及啓発

- 電子情報通信学会 AI研究会での発表

電子情報通信学会 AI研究会
データ市場 特集IV
計算機・データ・人材の融合による異分野データ連携と価値化を促す技術群

2018年 2月17日 (土)
東京大学本郷キャンパス
工学部2号館 212号室

主催：東京大学大学院工学系研究科大澤研究室
お問合せ先：03-5841-2908
メール：info@panda.sys.t.u-tokyo.ac.jp

9:00 データ市場のビジョナリー
□ サービスインテリジェンスのためのデータ知識融合 (西村拓一・西村悟史・福田賢一郎・渡辺健太郎・狩野なみ・Jokinen Kristiina・吉田康行)
□ データ解析とシミュレーションの統合による経済システムデザイン (和泉潔)
□ Curation (阿部明典)

10:10 データ市場における人と認知
□ コンジョイントカードを用いた日本におけるデータ活用に関する調査 (大澤幸生)

15:00 データ市場におけるデータのネットワークと関係性の分析 (早矢壮晃章・大澤幸生)
□ Web版 Innovators Marketplace on Data Jackets を用いたデータ利活用に関するコミュニケーション支援 (岩佐太郎・早矢壮晃章・大澤幸生)

15:10 データ市場社会の影響
□ 官民データ活用による行政課題解決サイクルの仕組み化に向けて (狩野英司・大西浩史)

16:50 データ市場の生んだ技術
□ Innovators Marketplace on Data Jacketsを用いたオープンイノベーション (宇井剛史)

一般社団法人 電子情報通信学会 THE INSTITUTE OF ELECTRONICS, INFORMATION AND COMMUNICATION ENGINEERS
信学技報 IEICE Technical Report

官民データ活用による行政課題解決サイクルの仕組み化に向けて
—「官民データ活用シナリオ創発プラットフォーム事業」の取組み—
狩野 英司[†] 大西 浩史[‡]

[†]一般社団法人行政情報システム研究所 〒100-0012 千代田区日比谷公園 1-3
[‡]株式会社リアライズ 〒135-0042 東京都江東区木場 5-5-2
E-mail: [†]kano@iais.or.jp, [‡]oonishi@realize-corp.jp

あらまし 近年、政府はオープンデータの推進に向けて様々な施策を講じてきたが、自治体でのオープンデータの導入は伸び悩んでおり、データ活用による課題解決も期待ほど進んでいない。こうした状況を打開するには、行政におけるデータ活用の方法論を“仕組み化”することが有効と考えられる。「官民データ活用シナリオ創発プラットフォーム事業」は、官民データを活用したアイデア創発を継続的・発展的に実現するサイクルの構築を目指す取り組みであり、課題解決型のデータ利活用を実現するとともに、オープンデータそのものの推進にも資することが期待される。本稿では本事業の背景、目的、枠組みを論じた上で、実際の行政への適用結果の評価を行う。

キーワード 官民データ、データジャケット、データ活用、オープンデータ、データ市場、行政

Building a Framework of Resolving Public Issues by Utilizing Data
— Public and Private Data Utilization Scenario Creation Platform Project —
Eiji KANO[†] and Koshi OONISHI[‡]

[†]Institute of Administrative Information Systems 1-3 Hibiya Koen, Chiyoda-ku, Tokyo, 100-0012 Japan
[‡]Realize Corporation 5-5-2 Kiba, Koto-ku, Tokyo, 135-0042 Japan
E-mail: [†]kano@iais.or.jp, [‡]oonishi@realize-corp.jp

Abstract In recent years, government has taken various measures to promote open data, but the introduction of open data into local government is stagnated, and problem solving by utilizing data has not advanced as much as expected. "Public and Private Data Utilization Scenario Creation Platform Project" is a challenge to build a cycle creating ideas continuously by utilizing public and private data. It is also expected to contribute to the realization of data utilization for problem solving and the promotion of open data. In this paper, after explaining its background, purpose and framework, the result of real practices will be evaluated.

Keywords Public and Private Data, Data Jacket, Data Utilization, Open Data, Data Market, Government

1. はじめにーデータ利活用戦略の到達点ー
データの利活用が企業経営の重要テーマの一角を占めるようになって久しい。かつては一部の研究機関に限られていたビッグデータの分析技術は今や成熟期

国で 2009 年にオバマ政権が「Open Government Initiative」を掲げたことで注目を集めて以来、各国で広がりを見せるようになり、我が国でも種々として横浜市など一部の自治体で導入が開始された[2]。政府で

3. 運用状況

③ データジャケットの標準化とデータ流通

- データ流通推進協議会のデータカタログ策定作業に協力



技術基準検討委員会

データカタログTF

項目	名称	概要	標準化状況	利用状況	備考
1	foaf	foaf:.rdf	標準化済	広く利用されている	
2	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
3	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
4	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
5	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
6	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
7	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
8	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
9	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
10	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
11	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
12	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
13	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
14	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
15	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
16	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
17	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
18	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
19	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
20	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
21	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
22	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
23	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
24	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
25	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
26	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
27	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
28	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
29	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
30	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
31	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
32	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
33	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
34	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
35	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
36	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
37	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
38	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
39	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
40	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
41	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
42	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
43	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
44	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
45	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
46	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
47	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
48	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
49	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	
50	dc	dc:terms	標準化済	広く利用されている	



データジャケット
推進WG

データジャケット語彙 (Data Jacket: DJ)
データジャケット推進ワーキンググループ 2018年6月14日

最新バージョン (Latest published version) :
<http://datajackets.org/datajacket/>

旧バージョン (Previous version) :
<http://datajackets.org/datajacket/>

公開者 (Publisher) :
データジャケット推進ワーキンググループ (Data Jacket Alliance)

編集者 (Editor) :
田代 真幸 (Masaki Hayashi)

要約 (Abstract)
データジャケット (Data Jacket: DJ) は、メタデータを記述するためのデータ標準規格記述手法です。本ドキュメントでは、データカタログの相互運用性の向上のために、広く利用可能なメタデータ標準規格 (DCAT) を広く利用します。DJでは、独自のクラスとプロパティは明示して定義しています。なお、DJで使われている名前空間と修飾語は以下の表に示した通りです。

修飾語	名前空間
dc	http://www.w3.org/ns/foaf#
dc	http://www.w3.org/2000/01/rdf-schema#
dct	http://purl.org/dc/terms/
rdf	http://www.w3.org/1999/02/22-rdf-syntax-ns#
foaf	http://xmlns.com/foaf/0.1/

4. 今後の取組

データ整備、PF機能強化、普及啓発に力点

- 今年度は以下に力点を置いて活動

① データ整備

- DTAにおけるデータ標準策定結果を踏まえ、データジャケットPF上のデータを再整備

② 機能強化

- 上記と併せて、官民データジャケットPFの機能強化を検討

③ 普及啓発

- 様々な機会を捉え、データジャケットWSの開催等を通じたPFの拡充を推進

ご清聴ありがとうございました

株式会社 リアライズ
一般社団法人 行政情報システム研究所